

第2節 歴史を継承し、文化を創造するまち

# 2 文化

～文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち

## <A 基本計画の目標>

市民がこれまで培ってきた文化の伝統に加えて、新たな文化を創造・発信するために、文化活動の振興を図ります。

## <B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	51.4 %	66.1 %	58.8 %	65.6 %	66 %	↑

## <C 目標達成に向けた25年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【経営企画部】	自己評価
<b>【鎌倉芸術館の予防修繕】</b> 前年度に引き続き、計画的に施設、設備等の維持修繕を実施しました。	◎
<b>【川喜多映画記念館の運営】</b> 川喜多映画記念館は開館当初から指定管理者により運営され、主に映画資料等の展示、映画上映を行ってきましたが、開館から4年目を迎え、映画上映の更なる充実や新たな市民参加型事業の実施等、市民等から好評を博す事業を行うことができました。 また、旧和辻邸については、南側の縁側等の修繕を予算の範囲で行いました。	◎
<b>【(仮称)鎌倉美術館の整備】</b> 美術館の市内適地等の情報収集を行うとともに、美術工芸品等収集選定委員会に意見を聞き、市への寄贈品等の円滑な収集事務を進めました。 また、美術品保管委託として、美術品保管実績のある民間倉庫において、市が保有する美術品の適正な保管を行いました。	○

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

## <D 8年間(平成18～25年度まで)の取組の評価>

【経営企画部】
市民サービスの向上と施設の効率的な運営を図るため、指定管理者制度を導入するとともに、市民の芸術文化鑑賞機会の拡充や文化活動機会の充実を図りました。 また、本市の子どもの文化芸術活動の意欲を高め、活動を支援するため、平成25年度に「鎌倉市ゆめひかる文化芸術子ども表彰」を創設しました。

## <E 25年度までの未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】
<b>【鎌倉芸術館の予防修繕】</b> 今後も円滑な施設運営を行うためには大規模修繕が必要ですが、多額な修繕費を要することになります。長期的展望に立った修繕を計画的に行っていく必要があります。
<b>【(仮称)鎌倉美術館の整備】</b> 用地選定が進まない中、具体的な施設内容の検討が進んでいない状況です。

## <F この分野の取組が含まれる第3期基本計画の施策の方針>

### 【経営企画部】

分野名	施策の方針名
文化	文化活動の支援・推進

## <G F欄の施策の方針における今後の展開(取組方針)>

### 【経営企画部】

施策の方針名	鎌倉市文化推進プラン21に基づき、さらに市民の文化活動を促進し、新たな文化の創造、発信を推進します。
文化活動の支援・推進	各文化施設を地域の文化芸術の創造・発信の場として、さらに充実した事業の実施、効率的な運営を図ります。 鎌倉市公共施設再編計画基本方針に基づき、鎌倉芸術館等の修繕を進めます。

## <H 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市民文化祭への 来場者数(+)	毎年、鎌倉市が主催する 市民文化祭の年間来場者 数	27,627 人	45,038 人	44,147 人	46,293 人	<b>37,404</b> 人	27,700 人	27,900 人
鎌倉芸術館・鎚木清 方記念美術館・鎌倉 文学館・鎌倉国宝館 の利用度(+)	4施設の年間利用者数の 合計	686,854 人	684,180 人	692,964 人	728,343 人	<b>720,826</b> 人	688,000 人	688,000 人
市民文化度(+)	ここ1年間に、文化的イ ベントに参加したり、文化施 設に行ったりしたことがあ る市民の割合	43.9 %	33.9 %	37.1 %	36.8 %	<b>35.6</b> %	44.9 %	45.9 %

## <I 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	600,015千円	773,146千円	499,070千円	494,044千円	481,245千円	533,873千円		
	(国・県)	11,428千円	46,174千円	0千円	1,764千円	0千円	0千円		
	(負担金等)	5,991千円	5,662千円	5,544千円	960千円	6,211千円	5,900千円		
	(一般財源)	582,596千円	721,310千円	493,526千円	491,320千円	475,034千円	527,973千円		
	人員配置数	4.9人	5.9人	5.9人	6.9人	6.8人	7.0人		
	人件費 (B)	46,906千円	54,343千円	51,043千円	59,400千円	54,579千円	52,451千円		
	総事業費 (A+B)	646,921千円	827,489千円	550,113千円	553,444千円	535,824千円	586,324千円		
	対前年比		127.9%	66.5%	100.6%	96.8%	109.4%		

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### ◎ この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・市民の芸術文化鑑賞機会の拡充、文化活動機会の充実を図った。
- ・平成22年4月に映画文化の発信の場として川喜多映画記念館が開館し、鎌倉芸術館や川喜多映画記念館などの運営を積極的に推進してきた。また、指定管理者制度を上手く運用したことも評価できる。ただし、指定管理者制度の有効活用により、各施設の利用者数を増やす等の努力が認められるが、事業全体において、建物等ハードウェアの維持・管理に関する割合が多い。現存の文化施設での今後のサービス向上に期待したい。
- ・鎌倉ゆかりの文化人による小中学校へのアウトリーチ事業「ようこそ先達事業」や子どものための「鎌倉市ゆめひかる文化芸術子ども表彰」の実施などはよい取組と思われる。次代を担う子どもたちに文化・芸術への興味を一層惹き立てることを期待する。
- ・市民へのアンケートにより「文化」について、市民が持つイメージを把握しようと努力している。
- ・古都、歴史とともに鎌倉の文化を守り、継承し、発展させる施策が展開されてきたと思うが、評価の過程ではそれらがきちんと提示されていないことが問題である。

きわめて優れていた：◎  
十分であった：○  
不十分であった：△

○

### ◎ 第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

- ・鎌倉らしい「文化」としてバックアップするような施策が見えない。世界遺産登録に翻弄された感があったが、今後は文化推進プランに基づいて、鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援に尽力して頂きたい。
- ・文化財の保護・運営に留まらず、市民が新たな文化を創造・発信できる場の創出が今後の課題であると思われる。
- ・アンケート結果を基に重要度や優先順位を決めて、市民ニーズに応じた事業を実施して欲しい。
- ・市内には文化活動を行うクリエイターも多く、フリースペースやイベント等で合同展示が行われている。新しい文化芸術を取り込みたい。
- ・鎌倉市公共施設再編基本計画に基づいて、老朽化が進んでいる文化資源の長寿命化、整理・再編による有効活用を期待する。
- ・指定管理者の運営によって歴史的遺産・文化資源の活用が市民などに喜ばれることを期待する。

### ◎ この分野の指標に関する意見

- ・満足度と市民文化祭来場者数との相関性は高いが、「文化的イベント」とは負の相関関係にあり、両極端である点が不可解である。伝統文化と大衆文化の違いが原因とも考えられる。
- ・市民満足度は徐々に向上しており、市民の理解が得られていると考えられる。引き続き施策コストとの効率性を考えながら施策を実行していく必要がある。なお、指標は徐々に上昇しており、目標値をどこに置くかが次の課題である。
- ・芸術館などの利用率は最近、減少傾向であり、今後、検討が必要である。なお、利用者数の増加も必要かもしれないが、利用した結果、満足したかどうか重要である。
- ・アンケートによって明らかになった、「市民が求めるもの」が現状でどうなっているのか？を把握し、それをベースとした指標を新たに設定すべきである。
- ・市民文化度が低い、設問の仕方が悪いのか。市民はもっと文化に親しんでいる印象がある。

## ◎ この分野に関する総括意見

- ・満足度の実績、市民文化祭への来場者数、鎌倉芸術館等への利用者数が示すとおり、伝統文化に対する市民の関心・活用は相当高い。
- ・この8年間の間に、ジャズ祭が民間主催に移管されたが、他に鎌倉の文化を発信できるテーマについて検討する必要がある。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
- ・関係する施設の維持管理が課題となっており、費用面ではそちらに取られる割合が高いことから、極力市民の協力を得て文化の継承・創出を図っていくことが求められる。
- ・市民満足度は決して低くは無いが、イベントや施設の利用が伸び悩みで、その要因をもっと丁寧に検討して解決することが必要だと思われる。
- ・文化は歴史環境や産業等の分野とも密接な関係があるため、相互に連携を取り合いながら、具体的に何をすることが市民のニーズに応える事になるかを考えながら事業を実施して頂きたい。
- ・観光客や市民が鎌倉の文化に接するための施策が欲しい。広報に力を入れてほしい。外国籍市民からは映画記念館での英語作品の提供を期待されている。
- ・文化の創造・発信の具体的方策として「文化芸術創造都市」推進事業に応募することを勧める。